

文化・経済フォーラム滋賀

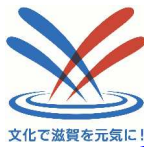
文化deけいざい 経済deぶんか ニュース&にゅーす第17号(2012年6月13日)

発行 滋賀県文化振興事業団内事務局(大津市京町3丁目4-22 旧滋賀会館内)

077(522)8369 fax 077(522)9647

eメール bunka-keizai@shiga-bunshin.or.jp

事務局 岸野 洋



文化deけいざい 経済deぶんか  
ニュース&にゅーす 第17号

昨日12日付け朝日新聞の1面コラム「天声人語」に梅雨のことが書いてありました。古来の文人墨客が詠んだ句の紹介でした。一つは芭蕉の<五月雨を集めて早し最上川>です。疾走する流れが、船上からの生中継よろしく活写される~と書いています。もう一句は蕪村の<五月雨や大河を前に家二軒>です。これは静止画の趣とニュース写真に通じる緊張感があり、水害の危地を切り取っていると。うまい書きように感心します。詩人、故岸田衿子さんが表した色んな雨の音も紹介してありました。

はっぱにあたって ぴとん

まどにあたって ぱちん

かさにあたって ぱらん

すみれのはなに しとん

くるまのやねに とてん

雨の音の聞き分け、感性だなあと、読みました。皆さんなら、どう聞こえるでしょうか。シトシト、ポツリポツリ...、これは常套句ですね。昨日の天声人語子は無粋を省みず、梅雨の肌ざわりを短詩風にすれば~と断って<にほんれっとうが じゅるん>と日本の今の政治にひっかけていましたが....

明日14日はびわ湖ホールで6月の役員会があります。文化ビジネス塾、文化経済サロンの実施について、事業計画を具体的に詰めます。どう決まったか、できるだけ早くご報告しますが、今日は現在、事務局で収集しております会員の皆様のイベント案内チラシについてです。メール連絡で、お知らせしましたが、思ったほどではありませんでした。どんなチラシか、ご参考にしてもらおう意味で、内容を並べて見ました。

(H24.6.13 現在)

石山寺縁起の世界展(滋賀近代美術館)

湖舞の会 五周年記念公演(滋賀邦舞連盟)

SUMMER CONCERT 13TH(ひこね第九オーケストラ)

大人の寺子屋 ガマの油売り(伊吹山ガマの油口上保存会)

中小企業相談センター事件簿(サンライズ出版)



近江のかくれ里 白州正子の世界を旅する（サンライズ出版）

ドイツ合唱音楽の伝統（びわ湖ホール）

松竹大歌舞伎（びわ湖ホール）

ゴードン・フェルグス・トンプソン&井尻愛沙ピアノ・リサイタル（井尻愛紗さん）

ポップス・ジャズ&アニメソング（滋賀県文化振興事業団）

J A Z Z & 映画 この素晴らしき世界（滋賀県文化振興事業団）

チラシのタイトルだけ並べてみました。これに淡海ネットワークセンター案内、滋賀県文化振興事業団発行の情報誌「えいじゃに」と文化基金募集などの案内があります。事務局では、バイトでも使って、仕分けしなければと覚悟しておりましたが、ちょっと肩透かしをくった格好です。手始めのことですので、まあ、仕方ないかもしれません。そういうことなら一と次回以降、どんどん送っていただければ一と思います。



前回のメルマガ、会員さんが新聞紙面に登場した分を紹介しましたが、滋賀近美の秋山館長からも、それなら...と、新聞の切抜きコピーと冊子が届きました。滋賀県庁職員さんとOBによる短歌の会が初の合同詩集「十二色のコラージュ」を自費出版した一という記事です。京都、朝日、中日、滋賀報知に掲載でした。秋山さんの写真が載っていましたが、会員さんの活躍、嬉しいですね。

会員さん情報と言えば、一般社団法人滋賀県建築設計家協会が一年に一度発刊する機関紙「鳩の巣」No 38に4人の会員さんが登場しています。県建築設計



家協会の事務所が滋賀会館にある関係で、井上専務から寄贈を受けました。表紙写真が今森光彦さんで、立派な装丁の冊子です。掲載の会員さんは、淡海を創る欄で愛荘町の村西町長、淡海を思う欄で、画家山尾才さんとピアニスト南千勢子さん、それと講演録ということで、代表幹事の木村先生が載っていました。木村先生は琵琶湖ホールで「近江の歴史と文化の特性」と題してお話されたようです。それぞれに頁数が裂いてあり、読み応えがあります。

メルマガ、間をあけず、5月から3回目になりました。会員さんへの情報提供、思いつくままにと思っています。調子に乗る癖があります。またか、と邪魔くさがらず目を通していただければと思います。次回は明日14日の会議結果をそのうち一に報告します。